

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

男性5名、女性5名 計10名
区長会長(1)、下庄をよくする会(1)、下庄公民館(1)、ふわわ女性の会(1)、有識者(1)、PTA(2)、本校(3)

※地域コーディネーター(2名)
下庄公民館(1名)、しもプロ会員(1名)
※「しもプロ」とは
下庄地区の比較的若い世代の人が集まり、地区を活性化させようとまちおこしを創造する活動を行っている団体。

(2) 協議会の内容

※開催回数 3回
※開催日 ①9月19日(木)
②1月8日(水)
③3月5日(木)
※主な協議内容
①教育計画と教育実践の実際について
情報交換
②学校評価の結果について
地域から見た下庄小学校について
情報交換
③学校関係者評価について
情報交換

(3) 協議会における成果と課題

- ・昨年度と比較すると学校公開日実施数や学校だよりの発行数を増加し、保護者や地域に開かれた教育活動の充実を図った。家庭・地域・学校協議会では本校の教育活動を録画した映像を公開し、スクールプランの具現化に向けての取組を共通理解した。
- ・各地区の育成会会長、PTA地区委員、PTA役員、本校教職員による情報交換会を夏休み前に行うだけでなく、家庭・地域・学校協議会員の協力を得て本校校区の安全マップを刷新した。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童が身の回りの生活状況から課題を見つけ、解決の方法や手順を考えながら見通しを持って計画を立てる。そして、課題解決に必要な手段を考え、選択しながら必要な情報を収集・蓄積して、それらを整理したり取捨選択したりしながら表現・発信し、課題解決をめざす。

今年度は、大野市や自分たちの住む下庄の「人・もの・こと」にスポットを当てて、探究する活動をつないでいくことで、ふるさと大野・下庄を大切に、大野・下庄に対する誇りと愛着を持つ子どもを育てる。

(2) 活動の実際

①「防災キャンプを成功させよう」(4学年)

平成は大きな自然災害が起こった時代であるが、災害はいつでも、どこでも、誰にでも起こりうるものである。そのような大災害がもし身近に起こった場合、どのようにして身を守り、生き抜いていくか。身近に起こりうる災害にスポットを当て、調査、体験、まとめ、発信し、探究活動を行った。

課題について調べるために図書館へ足を運んで調べ活動を行ったり、デジタルカメラを使用して写真を撮ったり、防災のことについて市職員から話を聞くための依頼を自分達で行ったりと、すべてに関して、自主的な様子が見られた。

また、防災キャンプ当日には時間を有効に使い、様々な活動を体験するだけでなく、フリートークの活動を行う中で防災に対する考えを広げ深めていく様子が見られた。さらに地域コー



(様式3)

ディネーターの方が所属する「しもプロ」の方や保護者の方達の協力を得て、夕食を食べたり、段ボールベッドをセッティングしたりと地域の方と一緒に活動することで、地域での避難生活体験をすることができた。

○市役所の防災防犯課の職員から防災講座を受け、災害を防ぐことの大切さを学んだ。

○避難訓練、防火・消防体験を行った。

- ・校舎からの避難訓練
- ・各種体験（はしご車、起震車、消火栓からの放水、避難袋を使っての避難など）

○「防災キャンプ」を行い、避難時の食事や段ボールベッドでの避難生活体験を行った。



②「大野の良さや（魅力）を未来につなげよう～もっと住みやすい大野にするためには～」 （6学年）

大野の良さや魅力を話し合いの中から見つけ、再確認すると共に、もう少しこうするとさらに大野が住みやすくなるだろうということを提案していくための活動を行った。

まず、大野の現状を把握するために、大野の良いところやもっとこうするといいなということ友達との話し合いを通して出し合い、グルーピングをしたり家庭でもフリートークしたりして考えを深めた。それらの中から自分が調べたいことについて調べるだけでなく、大野市職員による出前授業を受けたり、座談会を開いたり、積極的に他者との関わりを持った。

調べたこと、市職員から学んだことをもとに自分なりに考えた意見をまとめ、パソコンやタブレットを使ってのプレゼンテーション資料作りを行った。その中では、個人として大野市に提案する内容のものを考えることができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・大野市や下庄地区の良いところや人材に関する情報提供
- ・「防災キャンプ」にむけての補助と人的支援、「しもプロ」とのパイプ役

(4) 特に工夫した事項

- ・防災キャンプを通して、市職員、消防職員、防災設備点検業者、「しもプロ」メンバー、保護者など、たくさんの地域の方との関わりを持つことができただけでなく、災害を防ぐため、安全に避難するためには、たくさんの人々が関わっていることに気づき、考えることができた。
- ・6学年の活動では、個人研究テーマを設定し、それについてじっくりと調べ、まとめ、発表させるというように、個人での活動を重視する取組を行った。また、3学期に大野市全小学校に配備されたタブレット端末を使って資料を作成し、ICT活用しての実践を行った。
- ・どの活動も校内だけで終わらせるのではなく大野の「人・もの・こと」をつないでの学習を行った。

(5) 成果と課題

児童だけの活動にとどまらず、たくさんの地域の方を巻き込んでの学習を展開することができた。児童は、何よりも経験することで学びを深めていくことができる。専門家からの話や本物と触れ合うこと、実際に体験することを通して考えが深まり、調べたことを自分のものとし発信することができる。今回も大野の素晴らしい人たちとの出会いや体験を通して、自分達の将来に夢や希望を持つことができたのではないかと考える。

本物に触れるということとはとても大切であるが、準備・調整するのはとても大変なことで、ここで教師の力が試されると考える。子ども達の思いを実現させるための引き出しをたくさん持つために、日々アンテナを高くし情報収集に努め、自己研鑽を続ける教師集団を目指していきたい。